



# 野鳥の 不思議解明 最前線 #82 文 植田睦之

© Japan Bird Research Association, 2012

水面で休むマガモ *Anas platyrhynchos*。彼の目の色は黒なので、瞼はきつと白っぽい？  
撮影●渡辺美郎

## 寝ていることを仲間に知らせてる？

～目の色と瞼の色が正反対になっているカモ類～

「春眠暁を覚えず」といいますが、春と言わず、いつも眠いですね。特に会議。そして学会。自分が主体としてかかわっているものならシャキッとしますが、単なる参加者だとどうしても眠くなってしまいます。外に気分転換で出ることができない会議では、耐えられなくなると、議題について考えているふりをして下を向いたりなんてして、なんとかばれないように眠ります。

このように、ぼくは、何とか寝ていることがバレないように眠るわけですが、カモは逆に仲間に寝ているか起きているのかをわかるようにしているのではないか、という論文があったので、紹介したいと思います。

この研究を行なったのはフランスの Guillemain さんたちのチームです。鳥の群れは他個体の警戒を利用することで、1羽あたりの警戒に割く時間を減らしつつも、全体の警戒効率も高めていることが知られています（上田 1990）。採食している時ならば、まわりの個体が頭を下げて採食しているか、それとも頭をあげて警戒しているかを見ることで、自分が警戒すべきなのか、それとも採食すべきなのかを判断することができます。しかし群れで湖などで休息しているカモ類の場合は、身体の態勢では判断できず、まわりの個体が目を開けているのか、それとも目を閉じているのかを知る必要があります。そこで Guillemain さんたちは、目を開けているか閉じているかがわかりやすいようにカモたちが、目の色と瞼

の色を反対色にしているのではないかと考え、43種のカモを対象に比較をしてみました。

その結果は予測通りで、明るい目をしたカモは、濃い色の瞼をもち、黒っぽい目をしたカモは、白っぽい瞼をしていることがわかりました。また、雄雌で目の色が違う種は、瞼の色もやはり違っていて、系統樹を描いて比較しても、この色のパターンは系統とは独立に発生していることがわかりました。つまり、このパターンは偶然生じたものではなく、何らかの意味がありそうです。

とはいえ、その意味は「寝ていることを仲間に知らせている」とは限らず、なんらか他の意味があるのかもしれない。寝ていることをまわりに知らせる意味のある群れで休むような種と単独で休む種とでこのパターンに違いがあるかといった検証や、周囲が寝ている場合と寝ていない場合での個体の反応の研究、瞼の色を着色して変えた場合にどうなるかといった飼育実験などを行なえば、カモ類の目の色と瞼の色が反対になっていることの本当の意味がわかってくると思います。今後の研究の発展に期待したいと思います。

### 紹介した論文

Guillemain, M., Fouque, C. & Figuerola, J. (2012) Consistent contrast between eyelid and iris brightness supports a role for vigilance signalling in ducks. *Ibis* 154: 461-467.

上田恵介 (1990) 鳥はなぜ集まる？—群れの行動生態学。東京化学同人、東京。